

発展を目指す企業家のための経営指南役

No. 610

平成23年 4月11日(月曜日)

社 外 重 役

Selected Clients & Professionals Relationship

発行)株式会社ノースアイランド
 東京本社)東京都千代田区丸の内3-2-3 富士ビル5F
 Tel.03-3216-2004 Fax.03-3216-0439
 大阪支社)大阪市北区中之島3-3-23 中之島ダイビル9F
 Tel.06-6448-2004 Fax.06-6448-0539

F P

税務会計

WEBが呼びかける被災者救済
東日本大震災で貢献したい人達へ

東日本大震災被災地への義援金は日赤の扱いだけで700億円を超えた。まさに“国難”だから“貧者の一灯”でも被災者の足下を照らそうという善意で溢れている。義援金は被害程度に応じて、義援金分配委員会で分けられてから届くが、相当な時間がかかるとみられている。

募金活動で、過去の甚大災害に比べて異なるのはIT企業やITを駆使した市民救援活動の流れである。すでにGoogleが「尋ね人」で反響を呼んだように、ネット社会の人間関係は決して顔のない仮想社会でなく、実はリアルな人間の集まりであることを証明した。ヤフー、ニフティ、goo、楽天などのポータルサイト、主なSNSや共同購入型クーポンサイトも支援している。

寄付といえば、今回も日本赤十字社、共同募金会、日本ユニセフ協会(今回は50年ぶりの活動)が代表的団体で、信頼・実績も十分。指定する市町村への「ふるさと納税」もある。これは自治体への寄付で、額が5,000円超で税金控除の対象になるが、お金の使途は指定できない。

被災地の関係者なら故郷や縁のある町へピンポイントで支援したいのが人情だ。被災地の陸前高田市(岩手県)には、いち早く同地出身の関東在住者数人で立ち上げたWEB、save takata.orgがある。「高田を救え」を合い言葉に、義援金・物資を募る。現地に何度も入り「今困っているもの」を聞き届ける活動だ。復興プラン立案などと長期活動を目指している。

飲酒量1人年間平均82.6リットル
清酒は「新潟」、焼酎は「鹿児島」

お酒に強い地域というと、青森・秋田など東北人や九州勢、高知県人などが通説として挙げられるが、これを消費数量の数字面から眺めてみると、意外な事実が浮かび上がって興味深い。国税庁がまとめた都道府県別の2009年度成人1人あたりの酒類消費数量表によると、年間の1人あたり消費数量の全国平均は、ビール27.5リットル、清酒6.0リットル、焼酎9.3リットルなど合計82.6リットルとある。

都道府県別にみると、東京の114.4リットルを筆頭に以下、大阪98.9リットル、高知98.0リットル、秋田94.5リットル、青森94.5リットル、新潟94.2リットルと続く。ただし、東京や大阪は大都市圏という経済構造から業務用のニーズが大きいと推測され、実質的な“飲兵衛”の県といえば高知以下ということになりそうだ。

酒類別にみると、ビールは、東京47.7リットル、大阪35.4リットル、高知32.1リットル、京都30.6リットル、新潟30.2リットルなどが上位に並ぶ。

清酒は、新潟14.6リットル、秋田10.8リットル、富山9.3リットル、石川9.2リットル、山形9.1リットル、福島9.1リットルと酒どころが続く。

意外なことに、ここまで九州勢が出ていないが、実は特に南九州勢は、焼酎一辺倒なのである。焼酎の消費量の全国平均が9.3リットルのところ、1位の鹿児島はなんと27.5リットル。以下、宮崎22.6リットル、大分14.2リットル、熊本13.4リットルと上位4県を南九州勢で占めている。

今週のキーワード

貧者の一灯

長者の万灯より貧者の一灯という。昔々阿闍世王が釈迦を請じて供養をし、宮殿から祇園精舎への釈迦の帰り道に万灯を灯した。貧乏な一老女も灯明を掲げようと、わずかな錢を都合して一灯を灯したところ、王の灯明は消えたり、油が尽きたりしたが、老女の灯明は終夜、消えなかったという、「阿闍世王授決経」の故事が由来。貧しい人の誠意のあるわずかな捧げ物でも、金持ちの世間体を飾った多くの捧げ物よりもまさっている、真心の尊さをいう喩え(大辞林)。